

地域の問題を知り、討論を通じて解決のきっかけを考えるための分野横断的ゼミ対抗ディベート大会

プロジェクト代表者: 柴山千里

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは、後志の直面する課題をテーマに据え、経済学、言語学、法学にわたる多分野のゼミが対抗ディベート大会を行うものである。まず、最初の3回では、各回2~3の試合のテーマのうち、ひとつを小樽や後志の問題とする。それらの大会で扱ったテーマや議論内容を事後検証し、更に改良を加えた形で、小樽・後志が直面する現代的なテーマを選んで、市民や観光客に広く公開する形で第4回ゼミ対抗ディベート大会を行う。

2. プロジェクトの進捗状況について（～H28.10）

すでに5月26日と7月14日にディベート大会を開催している。小樽・後志関係のテーマは、5月26日は小樽観光に関する小林・井上ゼミによる「観光客誘致の対象を日本人主体にするべきか外国人主体にするべきか」、7月14日は小樽へのカジノ誘致のテーマで柴山ゼミと中島ゼミで「小樽へのカジノ誘致に賛成か反対か」を議題にしてディベートを行っている。必要に応じて、グローバル戦略推進センター研究支援部門の高野宏康研究員や小樽市産業港湾部の中野弘章部長のご助言を頂いている。

3. 今後の取組予定について

11月24日に第3回目のディベート大会を予定しており、すでに詳細は決まっている。小樽・後志関係のテーマは、北海道新幹線の新小樽駅に関するもので、小林ゼミと井上ゼミにより、「新小樽駅は必要か不要か」に関して議論される。その後、第4回目のタイトルや会場等についての打ち合わせを行い、12月下旬もしくは1月中に第4回目のディベート大会を開催する予定である。